

「協働」には、地域社会を構成する各主体にとって、また、地域社会の目標設定やその達成および効果にとって、どんな意義や効用価値があるでしょうか。

第1は、住民自治の充実・強化につながるという点

- ・自治とは自ら治めることですが、そのことを当事者以外の意向によって進めてきたのが日本の地方自治でした(中央集権>地方分権=自主自立性)。
- ・集権的自治が行き詰まる一方、多様な主体の当事者能力の向上と発揮が見られるようになり、後者が社会的利益や公益的価値の実現に向けた活動に取り組み始めた(新しい公共の出現とその担い手システムの芽生え)。
- ・多様な主体が地域社会の利益実現のために協力連携し、その実をあげていくという新しい公共の考え方は、地域社会を構成する当事者を地域社会の政治や行政に目を向かせ、参加を促し、さらには政策形成やその実行にも当事者の能力・資源・ノウハウを反映する「参画」や「協働」の政治行政へと進みはじめた(住民自治の充実・強化と地域社会の発展に繋げる)。

第2は、多元的な主体の協力連携で地域の課題発見や解決における行政の限界を乗り越えることが期待できるという点

- ・多元的主体が地域社会づくりに取り組むことで、これまで行政だけでは困難であった住民ニーズの把握、地域課題の発見と解決、新たな公共サービスの創出に結びつけていくことができる。
- ・多元的主体が協力連携したり調整したり役割分担したりすることで、それぞれが有する資源・能力・ノウハウが効果的に投入・活用され、きめ細かく対応でき、公共サービスの質も向上していく。
- ・各主体は地域自治の担い手としての自覚を高め、地域社会における各自の自己実現の機会を増大し、地域社会づくりへの積極的な参加と参画と協働を促進していく。

第3は、地域に存在する自治組織やボランティア・NPOなどがその活動を通じて、活動の意義や社会を担っていることの意義を再発見・再認識する点

- ・これまで地域社会づくりを行政に依存していたことから脱却し、地域社会づくりの多元的主体の一員と自らを位置づけ、他の主体との協力連携のパートナーという視点から、自らの活動の社会的価値を認識評価できる。

- ・多元的主体の一員となる地域住民は社会貢献活動に参加する機会を増やしながら多様な活動の場を拡大し、地域の自治活動を活発化させていく。

第4は、多元的主体が協力連携して地域社会づくりを進めることにより、行政は自らのあり方を見直す機会になっていくという点

- ・「行政主導型の行政運営」から「協働型の行政運営」へ移行することにより、これまでの行政の役割、立ち位置、あり方を見直し、地域住民をはじめとする多様な主体との関係はどうあるべきかを熟考・再認識させ、新たな概念（統治から調和へ）に基づく行政の役割へ導いてくれる。
- ・多元的主体が協力連携していくことで、行政は時代の変化に即応していかざるを得なくなり、そこでは、前例踏襲主義や法令万能主義、セクショナリズムから脱し、問題の掘り起こしから政策の形成や決定、執行、評価、修正にわたり、課題発見力、新たな手法の開発力、試行・実験力などを身につけ、問題解決の能力向上に繋げていける。

第5は、多様な主体が協力連携していくことで、より高い効果、迅速性、低コスト、きめ細かで温もりのある成果が得られるという点

- ・協働することで、これまでの行政だけで対応していたときよりも多くの知的資源や技法・ノウハウが得られ、その結果、各主体は互いに、足りない部分を補完しあい、尊重しあうなかで、自らがもっている最も得意とする分野の能力などを発揮し、くわえて、互いに調整能力を身につけていくことにより、個々に取り組んでいたときよりも高い効果をあげられ、迅速性と効率性と自治性と合理性が確保され、地域住民の満足感も得られていく。

参画・協働を進めるに当たって留意すべきこと

- ・目的・目標の共有が第一歩
- ・相互理解と相互尊重の努力
- ・公平性と公正性の確保の必要
- ・パートナーシップ確立のための対等性確保
- ・適正な役割分担とそれ相応の責任
- ・透明性の確保と説明責任と相互評価

## 例 1 静岡県掛川市における住民と行政の協働事業

### 遊歩道（散策路）の整備事業の場合

- ・ 主体：地域住民と行政による協働事業
- ・ 地域住民の役割：時間と労力と知恵を提供
- ・ 行政の役割：地域住民の意見を聞いて整備箇所をきめ、原材 料費と経費を負担。なお、各住区単位で住民懇談会を開催 し、そこで提起された要求要望を市域全体の観点から調整す る。（年平均 300 カ所程度、住民主体・地域主体で進める）
- ・ 効果：事業決定がなされれば、迅速に取り組める。  
経費は行政だけによる場合の 3 分の一。  
対象事業が利用者住民による整備であるため、住民の満足度も高くなり、向後の住民参加を促進し、住民自治の充実・強化に繋がっている（協働政策の効用大）。

## 例 2 愛知県額田町（現在は岡崎市）における協働事業の例

- ・ 住民発案によって「春は桜、秋は紅葉」の里山づくり事業
- ・ 完成は 50 年後か 100 年後か分からないが、人と自然の共生を住民参加による継続的事業と位置づけ、自分たちの里を大事に育てていく意識を持ち続けていくことを狙いとする。
- ・ 自分たちの生活の場を、「いいまちにしよう」「いいふるさとにしよう」ということを、公共事業を媒介にして住民と行政との協働事業を進めていくという発想、行政だけでは思いつかない点を住民が補完している
- ・ 行政はそうした住民発案を聞き入れながら、毎年 1000 万の予算を組んで、事業計画の策定・地域資源の活用方法・ボランティア同士の交流による創造的まちづくりの裏方的役割を果たしている。都市生活者の農業体験施設についても地区の財産の有効利用（空き家対策や耕作放棄地対策）によって、コストをかけないという住民の方策発想を事業に取り込む。

### 例 3 三重県藤原町における協働事業の例

- ・まちの 65 歳以上の人たちによる「農業公園づくり」事業
- ・農業公園づくりに参加したい「シニア市民」に行政から声をかける。
- ・農村地域（中山間地域を含む）活性化を図る農業公園構想の具体化と実行方針に地域住民の声を反映させる狙い。
- ・人生経験の豊富なシニア市民の英知とノウハウを、設計から施行にわたり発揮してもらうことにした。
- ・まちは 65 歳以上のシニア有償ボランティアを募り、長い人生経験を通して身につけてきた能力を町の活性化に発揮してもらうとするガイドラインを示す。
- ・予算は基礎（骨格）予算でスタートし、事業の細目については参加した住民のアイデアや、やりやすい方法に任せるとする柔軟な手法を採用。
- ・まちはこの事業に最初、1 億円を用意し、1 時間あたり 800 円の時間給で有償ボランティアを募り、1 日平均約 60 名ほどが参加。この 10 年の間に延べ 6800 人が参加。
- ・まちの担当者はその日に参加した住民の得意分野・能力・体力に応じて仕事の割り振りを行い、整備事業を進めていく。
- ・この事業をすすめていく途中、参加者住民のアイデアによって当初の設計を変更したり、地域特性を反映した施策を取り入れたりしながら、参加者のヤル気・満足感を高め、当該地域の新たに創造的な活力を生み出していく。
- ・その典型は当該地域が中山間地域と都市地域の間であることから必然的に発生する『草木の処理』に関して、住民のアイデアから生まれた「堆肥施設」の整備事業。農業公園整備とも釣り合う考えに、まちは初年度 9800 万を用意し、堆肥施設を整備。草木の処理を有料で受け入れ、堆肥化したものを有機肥料として都市生活者のプランター用に販売。
- ・この方策の実行により、初年度こそ税金投入が必要であったが、次年度からは収益が経費を上回るようになり、有償ボランティアの時給も 800 円から 1000 円に、そして 1200 円になり、公園整備費用の大半は毎年、この収益から賄うことができるようになったという。
- ・このケースは、徳島県上勝町の第 3 セクターによる「いどころ事業 = 通称【葉っぱビジネス】」に類似していて、現代の人びとが求める「アメニティ」= これは人びとが生活していく上で必要なものを必要なときに必要なだけ、手の届く

ような環境を創造する = に応えていく事業となり、都会の人も農村の人も日常生活上において必要なことを充足させていくのではないか。

・このような施策の流れはいまや、全国の自治体 1700 余の 3 分の 1 に広まっている。ここで大事なことは、行政が財政逼迫を理由に、あるいは行政効率化を理由に、行政以外の主体を労力提供者や納税者・要求要望者と位置づけしないで、政策の選択、企画、実施、評価、修正、再投入の過程において、それら主体の能力・資源・ノウハウが発揮できる協力連携者と位置づけ、行政の限界性を払拭するとともに住民自治の強化と行政のいっそうの効率化に繋げていくことであろう。

#### 例 4 静岡県三島市におけるグランドワーク実行委員会の役割

・地域づくりのための「行政と企業と地域住民」の媒介的役割

・地域には様々の地域貢献活動団体がある。町内会・自治会・ボランティア・NPO・社会福祉・スポーツレクリエーションなど。

・その一団体あたりのメンバーは 25 人前後、三島市には 300 ほどの団体があり、社会貢献活動に参加している人数は 7000 人弱。

・これらがバラバラの方向を向いて活動しているがために、いずれの団体もその目標達成度が低い状態にある。

・これを一つの方向に纏め、地域の活性化や安全安心の方向に向かわせれば、三島市は素晴らしいまちになるのだが・・・。

・誰かキーパーソン（纏めて牽引してくれる人）はいないか？

・市民の関心を一つに向けさせてくれるものはなにかないか。

・新幹線三島駅前の湧水池から流れ出す源兵衛川、長さ 1.5 キロの汚染状況をどうすれば昔のきれいな川に取り戻せるか。この課題こそが三島市民共通の関心事になるのではではないか。

・汚くて、悪臭を漂わせる源兵衛川を綺麗にすることがバラバラの方向を向いていた活動団体を一つに繋げる媒介項となる。

・点から線へ、線から面へ、面からまちへと、市民のまちづくり意識を高め、活動の輪を広めていく必要を人びとは感じた。

・人を結び、知を結び、人と自然とまちを結びリーダーを活動団体の中から発

掘っていく必要も互いに思うようになる。

- ・行政マンであり、地域のまちづくりに造詣が深く、かつ社会貢献活動歴も長く、三島市内の経済状況にも詳しく、交渉力のある人物を発見。新組織の事務局長役をやってもらう。

- ・まずは地元八団体が話し合いをもち、源兵衛川を蘇らせるために心を合わせ、知恵を出し合い、互いに協力し合って活動していこうと下から上に向かって声を上げる。そして、立ち上がったのが「グランドワーク三島実行委員会」であった。

- ・当委員会は自分たちの力で楽しみながら、アイデアを出し、労力を提供し、住民パワーを発揮して川の復活、まちの再生に取り組んでいく。

- ・その成果を上げていくために、住民と企業と行政の能力・資源・ノウハウを出し合い、連携して目標を達成していく仲介役の役割を果たしていくことになる。

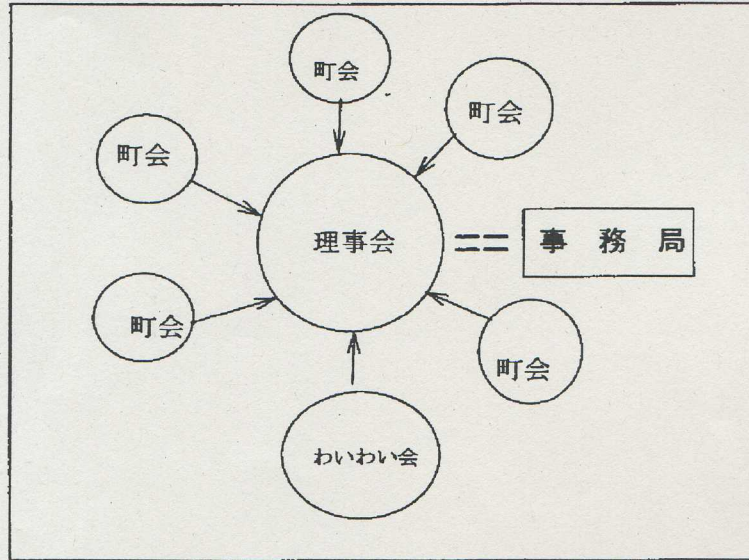
- ・行政には住民の声とアイデアを反映した、川を綺麗にするために必要な資材の提供と自然との共生を具体的に示すホタルや魚の回帰と三島梅花藻の育成、川沿いの遊歩道づくり計画を、地元市内企業には資金と湧水の提供を求め、住民は利用者として、協力連携者として知恵や労力やノウハウを提供して所期の目的を達成するとともに、後世代に残していくための共有資源の管理の役割を担っていく。

- ・この事業経費は行政だと 2500 万を要するが、5 万で済んだと。

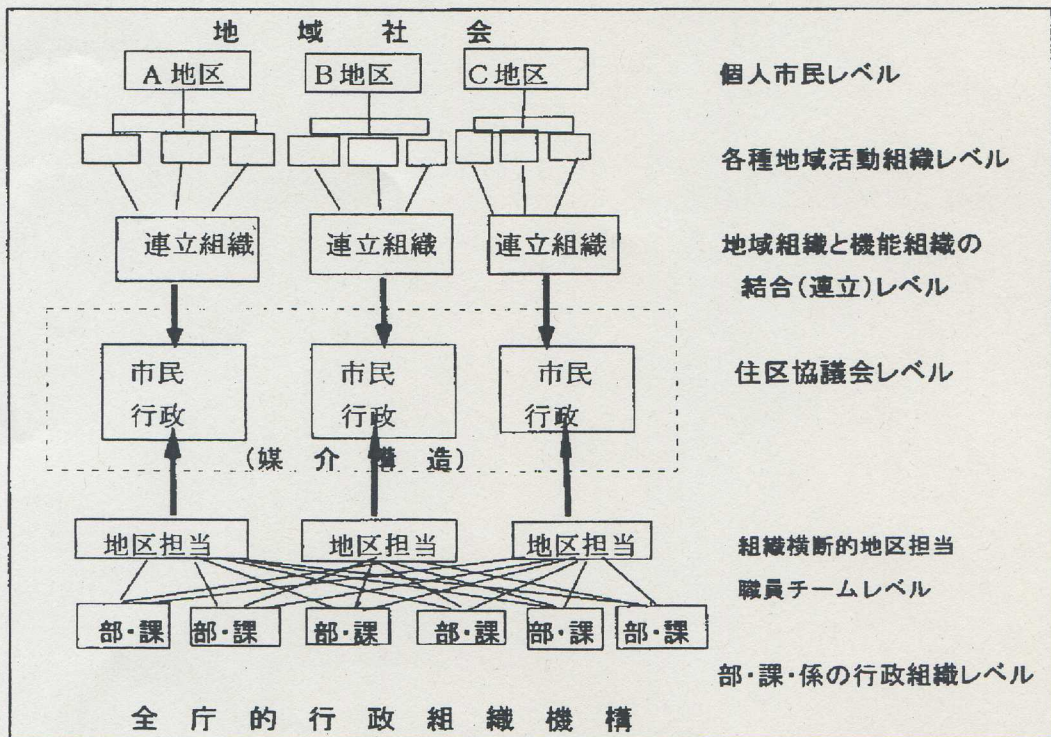
(荒木作成)

★協働の仕組みづくり(概念図)

一寺言問を防災のまちにする会(一言会)



★ 公民協働の仕組みと媒介構造としての住区協議会



## ～地域でのまちづくり活動の例～

### 【小島校区】

小島校区では、河川敷に漂着するごみの処理が長年の地域課題であったことから、崇城大学生との協働による調査を行った結果、上流域からの投げ捨てごみや下流側の海から逆流するごみの滞留が原因であったことが判明しました。

坪井川を擁する複数校区との連携が必要であったことから、調査結果についてシンポジウムを開催して発表するとともに、流域ネットワーク会議の開催や、小学校児童による環境向上に向けたポスター作成、親善大使としての上流域校区の小学生や住民との交流により、河川浄化への意識向上と地域住民における清掃活動の拡大に繋がっています。



河川敷での清掃活動の様子

### 【高橋校区】

高橋校区では高齢化が進み、以前より災害等が発生した際の避難態勢をどうするかという課題がありました。そこで『自分で守る、みんなで守る、災害に強い町づくり』を基本理念に、住民がともに助け合い自主的に行動できるような体制づくりを進めています。

平成21年度より、消防署・社会福祉協議会・地域の医療機関・包括支援センターの協力を得て、「高橋校区大規模災害活動訓練」を開催しています。当日は消火訓練や起震車体験、AEDなどの救急講習、炊き出し訓練などを行いました。

また、熊本市地域コミュニティづくり支援補助金を活用し、防災テントやブルーシート、ロープなどの防災用具、防災用具を収納する倉庫を整備しました。そして、災害時要援護者の個人支援プランや避難マップを作成・配付し、救急時に役立つ「命のバトン」も高齢者などに配付しています。

「命のバトン」とは、かかりつけ医や服用薬、緊急連絡先を記入した用紙などを入れたもので、救急時に救急隊員が確認することで早急な処置につながる。主に冷蔵庫に保管され、玄関先などに「命のバトン設置ステッカー」を貼るようになっている。



高橋校区大規模災害活動訓練の様子



命のバトン



## 【 龍 田 校 区 】

龍田校区では、校区内の各種団体の連携を図るため、校区自治協議会が中心となり「龍田校区コミュニティカレンダー」を製作し、校区内約6千世帯に配布しています。町内自治会や地域コミュニティセンター、青少年健全育成協議会、社会福祉協議会などの校区内の各種団体や、小中学校の各種行事のほか、バスの時刻表、公共施設や病院の電話番号、龍田校区のイラストマップを盛り込むなど、充実した内容で校区住民に重宝されています。

校区内の行事、活動を年度当初にカレンダーとして全世帯に配布することで広く情報を共有することができ、行事の重複、連絡不徹底を軽減できる上、単発の行事も組み込みやすくなりました。また、事前に各種団体で調整を行うことで、団体間の横の連携も深まり、計画性のある地域活動が可能となりました。

さらに小中学校の行事を全世帯に知らせることにより、今後地域全体で子ども達に関心を持ち、見守ることでより安心、安全な暮らしやすい地域になることを期待しています。

## 【 花 園 校 区 】

花園校区では、古くから度々浸水被害やがけ崩れに見舞われてきました。5年ほど前から自主防災クラブ設立の気運が高まり、6つの町内自治会で設立されたものの、それぞれに活動されており、相互の連絡・連携体制が取れていなかったことから、校区自治協議会の活動部門「自主防災部」を設置し、校区における防災力向上に取り組んでいます。

各町内に一時集合場所・避難所を設置し、避難経路の再確認を行い、推奨避難路マップを作成し全世帯に配布するとともに、一時集合場所、道案内の表示板を整備し、校区自主防災連絡会の開催や定期的な訓練を実施するなど、災害時に備えた取組みの充実に努めています。

ある町内では、町内台帳更新時において、町内の方々に「災害時避難体制」の項目を設け「昼間在宅者」「一人で避難できない方」「避難支援ができる方」のいずれかに登録いただき、隣保班や近隣同士での支援体制がとれるよう準備を進めています。

6 ①白寿会総会 ⑦老青会総会	7 ④女性部総会	8 (小・中)始業式 ⑥宝積寺灌仏会
← 春の交通安全運動6～15日		
13 (小)給食開始	14 (自連)定例会 ①愛護会清掃 ②子ども会役員会 ③自治会・公民館総会 ④龍心会例会・総会	15 (小)学級懇談会 (民生)育児のつどい ⑤役員会部長会
20 (民生)挨拶運動	21 (小・中)全国学力学習 状況調査	22 (小・中)家庭訪問 ②老寿クラブ役員会 ②隣保組長会

カレンダー一例



一時集合場所の表示板

# 校区自治協議会の主な取組み事例一覧

地域コミュニティづくり活動支援採択事業

## 環境

校区	課題	取組み内容
城東	坪井川、白川の環境対策	坪井川と白川の水と緑を守り次の世代へつなぐため坪井川・白川清掃、白川大甲橋右岸遊歩道周辺草刈等
城南	小学校庭芝生化	「芝プロジェクト 2010」(校区住民による城南小学校中庭の芝植え、手入れ運動)
芳野・河内	公園・河川敷・山道の清掃	芳野・河内校区連携による通学路・生活道路・港・海岸線等の草刈、金峰山有明の森作り活動等
小島	坪井川河川敷におけるゴミ漂着問題	ごみの流れ等の調査、坪井川下流域再生シンポジウム開催、坪井川河川敷の清掃活動、児童親善大使派遣、ネットワーク会議の実施
月出	健軍川浄化問題	健軍川浄化作戦(EM菌を活用した健軍川等の水質改善、月出小プール清掃とEM菌培養液投入)
出水南	ほたるの里づくりによる環境保全	泥沼、タイワンナギ、ウォーターレタスなどの除去及び整備による「ほたるの里」づくり活動
奥古閑	廃棄生ごみの再資源化と減量化の推進	生ごみリサイクルボックス普及、EMぼかしづくりの講習会の実施
花園	花園再生、環境美化整備	校区内の花壇整備、河川清掃活動

## 世代間交流、住民連携強化

龍田	各種団体との連携、情報共有	各種団体の活動を取りまとめた龍田校区コミュニティカレンダーの作成
麻生田	子どもや子育て世代と高齢者との交流推進	動く「子育てサークル・いきいきサロン」の実施
清水	自然とのふれあい、食育による世代間交流の推進	環境セミナーの実施、野の花や昆虫の調査、ふれあい農園の開設、昆虫の里づくり活動による学校を核とした地域コミュニティの構築
城北	若い世代や転入者を含めた住民への情報発信・交換の推進	ホームページ「くまもと城北校区ネットワーク」を活用したまちづくり
白坪	子どもや子育て世代と高齢者との交流の推進	子育て講演会、世代間交流サークルの実施
小島	「3%運動」(全町民へ住みよい町づくりへの無理のない参加呼びかけ)	地域のまちづくり活動に対し、各人が持っている力を少しずつ出し合うための働きかけ
高橋	高齢者と子どもの世代間交流	高齢者と子どもの世代間交流の場の提供や地域の安全面の強化・防犯対策に繋げるため清掃活動充実。

## 防犯、防災

帯山西	地域合同防災訓練による防災活動の推進	校区防災の日を制定し合同防災訓練の実施
-----	--------------------	---------------------

花園	災害に強い花園づくり	一時集合場所・避難経路の設定、危険箇所等の確認、マップ作成・全世帯配布、表示板の設置、自主防災推進会議の定期的開催と訓練実施
画図	子どもの安全確保	青パト備品整備による小学校周辺パトロール・巡回パトロール等の充実
清水	安心安全のまちづくり	防犯サイト開設による地域団体間の情報共有を基盤とした広域リレー防犯活動
城西	安全安心のまちづくり	青パト整備による安心安全のまちづくり推進
託麻西	防犯活動の充実・拡大	防犯パトロール「もったいない隊」500名増員計画（校区の防犯意識を高めたパトロールの充実）

### （子育て支援、高齢者対策）

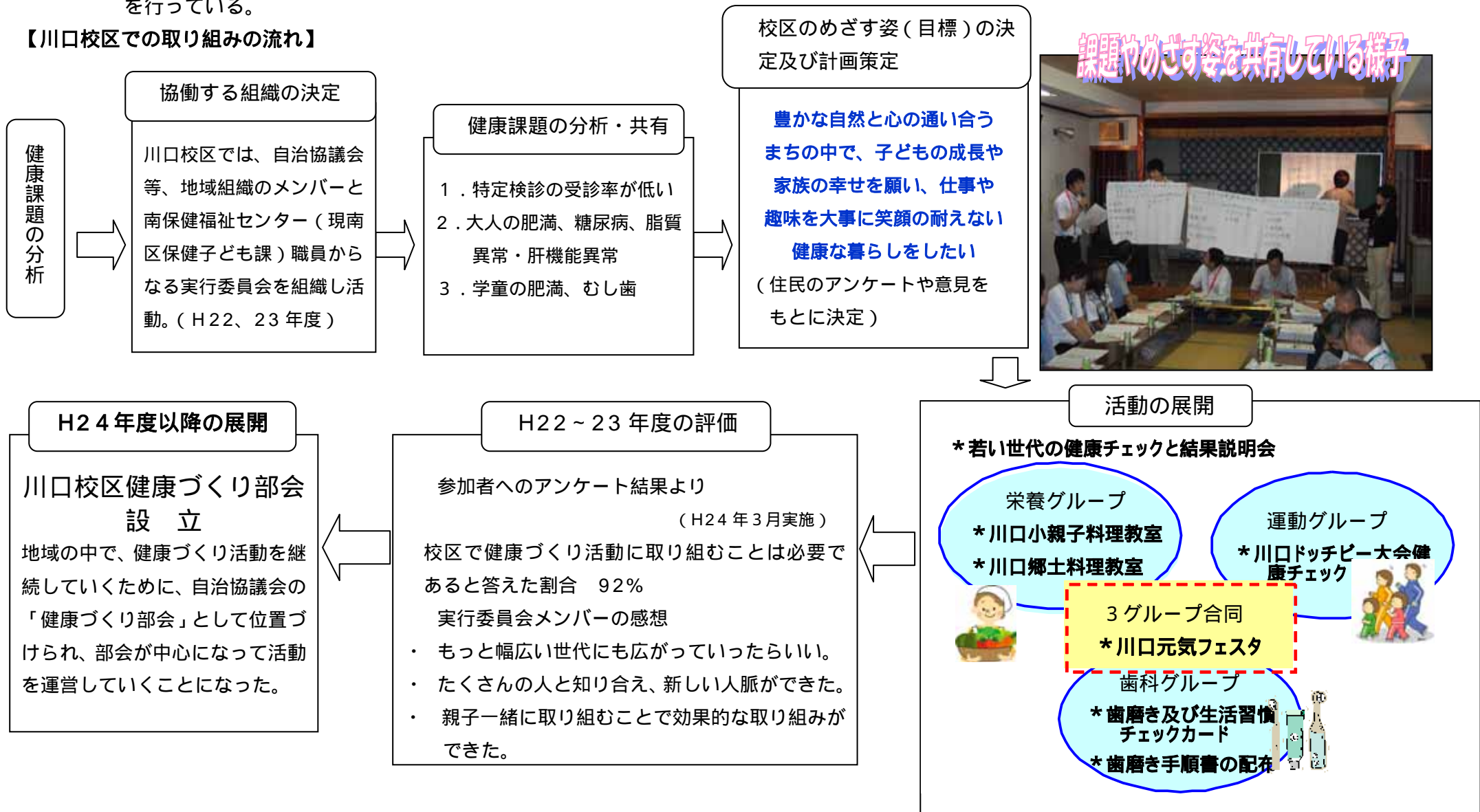
川上	少子化に伴う子育て支援対策	地域公民館を巡回し、出前子育てサロンの実施による子育て支援充実
桜木東	地域全体での子育て支援	食やあいさつの大切さを盛り込んだ「かるた」の作成、かるたの会の定期的な実施による子育て支援
高橋	災害時の要支援者、高齢者等への支援	「命のバトン」設置で高齢者を救う。防災避難マップの作成、自主防災訓練の実施、広報誌による啓発活動等
尾ノ上	校区の高齢化と商店数減少に伴う住民の利便性向上対策	高齢者支援朝市（生鮮農産物直売）の実施・検討

## 川口校区 生活習慣病改善モデル事業 ～校区住民との協働による取り組み～

「健康づくり」は、個人の意識に拠るところが大きいものと考えられるが、個人の健康づくりを実践、継続していくためには、人と人とのつながりを強め、地域の健康課題を一緒に考え、取り組む場などの環境づくりも必要であることから、住民との協働による健康づくりに取り組むこととした。

川口校区においては、健診の結果などから、子どもの肥満や働き盛り世代の生活習慣病などの健康課題が見られたため、その予防の取り組みを行っている。

### 【川口校区での取り組みの流れ】



課題やめざす姿を共有している様子

